



夏は琉球表がいいさ〜

汗をかき畳でごろ寝しながら甲子園を見つめれば私は心底から夏を感じます。

そんな暑い夏には琉球の地で使われている琉球表がおすすめです。普段使っているイグサ表よりも荒く太い草で編まれた琉球表はさっぱりとした肌感があり、その力強い見ためからオリエンタルな雰囲気をかもし出しています。

正方形をした琉球畳が人気ですが、琉球表を使った琉球畳は意外と少ないんです。

畳は消費財として考えられがちですが、良いものは十年使える耐久性を持っていきます。長く使うことを前提に本物の良い畳をいれる、そして夏を感じさせる琉球表を使ってみれば深い畳の世界への興味がくすぐられます。



「琉球表」サンプル



watch the construction site

施工現場より

富山県砺波市にある蛇喰公民館の畳入れ替えをさせて頂きました。

公民館は築60年の木造建築で、畳は今回が初めての入れ替えというかなりの年代モノでした。公民館という多くの人が集まる場所を考え、日焼けせず耐久性に優れたダイケンの和紙表畳を敷かせていただきました。50畳の大広間が新畳で色鮮やかな空間になりました。



都市思慮

島津良樹

What is the city?

「JR山手線駅ホームと町景観(1)」

JR山手線は正しくは「やまのてせん」と読む。全29駅で一周約1時間。台地で起伏の多い西半分と下町低地の東半分は車窓の景色がガラリと変わる。環状線だが始点と終点駅は最南の大崎駅。乗務員もこの駅で交代する。

山手線は1872年わが国最初の陸(おか)蒸気が新橋〜横浜間開通後、1885年に品川〜赤羽間が品川線として敷設された。その後、池袋〜田端の豊島線と合わせて山手線と改名。神田〜上野間が高架で繋がった1925年にはじめて現在のような環状線になった。ぐるりと一周まで明治・大正40年の歴史である。

各駅のホームから町の景色を眺めてみよう。私の最寄り駅の五反田駅は国道1号線真上の高架駅。道路、駅前広場と周辺の町並みが良く見える。外回りでの目黒駅は台地の切通し駅。擁壁と広告ばかりで町はチラとも見えない。目黒通りがホーム上の蓋になる。恵比寿、渋谷、代々木も広告看板や建物の壁ばかり。新宿は外側が小田急ビル、反対側は頻繁な電車の出入りで見通すことはほとんど不可能。東西に巨艦百貨店のある池袋も同じである。

駅ホームから町景観が見えるのは西半分では五反田のほかは以下の4駅である。原宿は明治神宮の緑がまぶしい。外回り線の更に外側に神宮参拝用ホームがあり、新宿方向には代々木のドコモタワーをバックに宮廷用の白いホームが見える。竹下通りは今日も若者で大賑わい。また、新大久保には通常の十倍くらい横に超細長い立看板2枚がある。あれは併行する西武新宿線の用地に立っているのだろうか。この駅周辺に氾濫する言語の半分はハンゲルなのだがホームからの景観にその存在は希薄である。高田馬場。行き交う学生達と同じように町風景も騒々しい。目黒駅は北半分が切通し。町景観は見えるけれども平凡で面白くないのは学習院や川村学園の乙女達の乗り降りする駅という幻想のほうに勝るからだろう。皇室幼稚園への送迎ママ達の上品なファッションセンス・物腰もまた町景観よりも絶対インパクトがある。

西半分、今回乗車はここまで。東半分はまた稿をあらためてご報告しましょう。

しまづ・よしき / 都市アナリスト。京都大学に学び西山卯三に師事。東急総合研究所取締役地域開発研究部長・顧問を経て、立教大学大学院教授。08年よりS&Associatesを主宰。